

地域の教育を考えるワークショップでの主なご意見

今年度、総合教育会議において、県立高校の目指す姿、県立高校の学科・コースの見直し、様々なタイプの学校・学科、県立高校の再編について議論いただくにあたり、地域の様々な声をお聞きする方法として、教育関係者や保護者、経済界の代表が参加する「地域の教育を考えるワークショップ」を開催しました。

第1回ワークショップの概要

開催日時

【新川学区】 5月27日（月）14時～16時：新川文化ホール

【富山学区】 6月 3日（月）14時～16時：富山県民会館

【高岡学区】 5月30日（木）14時～16時：高岡文化ホール

【砺波学区】 5月29日（水）14時～16時：砺波市文化会館

テーマ グループワーク① 「提言」及び「県立高校の目指す姿」について
グループワーク② それぞれの学区の目指す姿について

第2回ワークショップの概要

開催日時

【新川学区】 7月 2日（火）14時～16時：スカイホテル魚津

【富山学区】 6月28日（金）10時～12時：富山県民会館

【高岡学区】 7月 9日（火）14時～16時：高岡エクール

【砺波学区】 7月10日（水）10時～12時：サンキュア・ミューホール

テーマ グループワーク① 学科・コース
グループワーク② 様々なタイプの学校・学科、特色・魅力ある学校づくり

「県立高校の目指す姿」について

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">基本的な考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある高校づくりが「主」で、その結果としての再編統合は「従」である。 ・提言は、現実的で実効性がある。学科と学校規模をかけ算しながら、その価値や、学校を高めていこうという発想だと思う。 ・富山県として特色ある高校をつくるならば、もっと富山県としての特色ある部分が必要。 ・人口減少の中、現状維持は難しい。思い切った方向に舵を切ることも教育には必要。思い切った改革をするチャンス。 ・「生徒の幅広い選択肢の確保のため小規模校から大規模校まで配置する」とあるのはよい。 				
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学びの質の向上</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">連携</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・多様化する子ども達の学び、幅広い選択肢の確保には教員だけでは負担が大きい。企業や大学と連携していけるとよい。 ・職業系専門学科では、企業の方から指導を受ける授業があるとよい。 ・中学生が高校の授業を見ることでやってみたいと思う機会になる。中学校と高校の連携が盛んになるとよい。 ・地域や保護者を巻き込んだ学びが必要。小中学校との連携もあるとよい。 </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特色化・情報発信</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・学力以外の魅力で高校を選ぶようになってきた。高校から、こういうことをやっているという情報発信が必要。 ・卒業後の進路として、幅広い出口がある高校づくりを考える必要がある。 ・探究活動を充実させていくことが魅力化につながる。 ・高校は、人づくりの場。課題を見つけたり、解決したりする中で様々な力を身に付けることができる。 ・各高校は魅力をどう伝えていくか、中学校側は情報をどう受けていくのかが課題。 </td> </tr> </table>	連携	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する子ども達の学び、幅広い選択肢の確保には教員だけでは負担が大きい。企業や大学と連携していけるとよい。 ・職業系専門学科では、企業の方から指導を受ける授業があるとよい。 ・中学生が高校の授業を見ることでやってみたいと思う機会になる。中学校と高校の連携が盛んになるとよい。 ・地域や保護者を巻き込んだ学びが必要。小中学校との連携もあるとよい。 	特色化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学力以外の魅力で高校を選ぶようになってきた。高校から、こういうことをやっているという情報発信が必要。 ・卒業後の進路として、幅広い出口がある高校づくりを考える必要がある。 ・探究活動を充実させていくことが魅力化につながる。 ・高校は、人づくりの場。課題を見つけたり、解決したりする中で様々な力を身に付けることができる。 ・各高校は魅力をどう伝えていくか、中学校側は情報をどう受けていくのかが課題。
連携	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する子ども達の学び、幅広い選択肢の確保には教員だけでは負担が大きい。企業や大学と連携していけるとよい。 ・職業系専門学科では、企業の方から指導を受ける授業があるとよい。 ・中学生が高校の授業を見ることでやってみたいと思う機会になる。中学校と高校の連携が盛んになるとよい。 ・地域や保護者を巻き込んだ学びが必要。小中学校との連携もあるとよい。 				
特色化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学力以外の魅力で高校を選ぶようになってきた。高校から、こういうことをやっているという情報発信が必要。 ・卒業後の進路として、幅広い出口がある高校づくりを考える必要がある。 ・探究活動を充実させていくことが魅力化につながる。 ・高校は、人づくりの場。課題を見つけたり、解決したりする中で様々な力を身に付けることができる。 ・各高校は魅力をどう伝えていくか、中学校側は情報をどう受けていくのかが課題。 				
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">幅広い選択肢の確保</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">配置・規模</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の学校を念頭に置かず、ゼロベースで議論すべき。 ・幅広い選択肢確保のためには、中～大規模校が必要。 ・人間性育成にも適った小規模校はなぜだめなのか。 ・13市町すべてに高校は残してほしい。 ・一つの自治体に一つの高校ということは、すでに難しい。 ・各学区にバランスよくではなく、県全体で考えていくことができるとよい。 ・ある程度公共交通機関が整備されており、どの高校にも通いやすくなっているので学区を区別する意味はなくなってくる。 </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">進路選択</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望が定まっていない子どもに対応できる学校が必要。 ・普通科に何気なく進学している生徒にとっては、入学後にコースを選択できるとよい。 ・多様な学科を用意し、入学後に選択の機会があるとよい。 ・高校生の段階で専門に分かれることは難しいと感じる。 </td> </tr> </table>	配置・規模	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の学校を念頭に置かず、ゼロベースで議論すべき。 ・幅広い選択肢確保のためには、中～大規模校が必要。 ・人間性育成にも適った小規模校はなぜだめなのか。 ・13市町すべてに高校は残してほしい。 ・一つの自治体に一つの高校ということは、すでに難しい。 ・各学区にバランスよくではなく、県全体で考えていくことができるとよい。 ・ある程度公共交通機関が整備されており、どの高校にも通いやすくなっているので学区を区別する意味はなくなってくる。 	進路選択	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望が定まっていない子どもに対応できる学校が必要。 ・普通科に何気なく進学している生徒にとっては、入学後にコースを選択できるとよい。 ・多様な学科を用意し、入学後に選択の機会があるとよい。 ・高校生の段階で専門に分かれることは難しいと感じる。
配置・規模	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の学校を念頭に置かず、ゼロベースで議論すべき。 ・幅広い選択肢確保のためには、中～大規模校が必要。 ・人間性育成にも適った小規模校はなぜだめなのか。 ・13市町すべてに高校は残してほしい。 ・一つの自治体に一つの高校ということは、すでに難しい。 ・各学区にバランスよくではなく、県全体で考えていくことができるとよい。 ・ある程度公共交通機関が整備されており、どの高校にも通いやすくなっているので学区を区別する意味はなくなってくる。 				
進路選択	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望が定まっていない子どもに対応できる学校が必要。 ・普通科に何気なく進学している生徒にとっては、入学後にコースを選択できるとよい。 ・多様な学科を用意し、入学後に選択の機会があるとよい。 ・高校生の段階で専門に分かれることは難しいと感じる。 				

「学区の目指す姿」について

	特 色	目指す姿
新川学区	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や企業と連携した教育ができる素地がある。 ・農業など最先端だけではない深い学びができる環境。 ・いろいろな所に公共交通機関を使って通学できる。 ・富山学区への流出があり、新川学区だけで考えることは難しい。 ・就職先は新川なのか。富山や日本、世界と選択肢はある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来への道が見える化されている高校が大事。 ・大規模な総合職業高校で入学後に選択できるとよい。また、その中に普通科があってもよい。 ・普通科と職業科が交流できる学校があるとよい。 ・偏差値偏重ではなく、もっと幅広い学校をつくるのもよい。 ・企業の方から指導を受けるなど連携して授業を行えるとよい。
富山学区	<ul style="list-style-type: none"> ・他学区にはないものがある充実した学区。 ・普通科が多く配置されているが、学校ごとの特色がない。 ・学区として高校を見る視点がなかった。一般的な市民の感覚として特徴と言われてもよくわからない。 ・私立高校を含め、様々な校種がある中で私立高校に魅力を感じている生徒が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の整備状況なども踏まえ、他学区にはない選択肢を富山学区に用意するのがよい。 ・国際バカロレア認定校や中高一貫教育校をつくることもできる。 ・他校の授業を受けることができるシステムや探究活動での様々な職業科間の連携があるとよい。 ・オンラインを使って他校と連携し探究活動を行えるとよい。
高岡学区	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と深く関わる農業、漁業、デザイン、工芸などの学科がある。 ・ある程度の公共交通機関があり、どの学校にも行きやすくなっているが、流出にもつながっている。 ・通学条件が適うならば、高岡学区と砺波学区を区別する意味はなくなってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然条件や文化・産業を生かした学科を今後も生かしていくために地域連携を進めるべき。 ・普通科でも途中から農業のことを学ぶことができる総合学科的なものがあってもよい。 ・今ある普通科コースをどう情報発信していくか考える必要がある。 ・キャリア教育などの働きかけをしていくことが大事。
砺波学区	<ul style="list-style-type: none"> ・自然条件が魅力の一つ。また、企業などで1次、2次、3次産業がバランスよくある。 ・学科はバランスよく配置されている一方、交通面で不便さがある。 ・アクセスの良さから、金沢市の私立高校に進学する中学生が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立大学と連携して人材育成をするコースがあってもよい。 ・砺波学区だけでなく、砺波、高岡学区の範囲で県外へ流出しないような高校のあり方を考えるべき。 ・特色ある高校を富山市ばかりに集めず県内に分散させる。 ・教員同士の繋がり、高校生と中学生の繋がり、地域との繋がりといった活動を浸透させていく必要がある。

「学科・コース」について

	課 題	見直しに関する意見
各 学 科 共 通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容の見える化（魅力発信） ・ 中学校段階での選択の難しさ ・ 社会のニーズと子どものニーズのバランス ・ 教員の配置 ・ 施設、設備の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム（何を学ぶか）の検討 ・ グローバル化への対応 ・ ICTの活用促進 ・ 地域、企業、大学等との連携充実 ・ 多様性への対応 ・ 就労体験の充実
普 通 系 学 科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 偏差値偏重 ・ 理系離れ ・ 目的がなく選択する生徒 ・ 多様な学力水準への対応 ・ コースの内容や卒業後の進路の分かりにくさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ データサイエンスの推進 ・ 情報活用能力の向上 ・ 科学技術に特化した学習 ・ DXの推進 ・ グローバル化への対応 ・ 海外留学 ・ 大学進学に強い力の育成 ・ 探究活動の充実 ・ 教養教育に特化した学習 ・ 基礎学力の向上 ・ 複数コースの設置 ・ スポーツ、芸術等に特化した学習
職 業 系 専 門 学 科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学割合の増加への対応 ・ 就職割合の低下 ・ 志願倍率の低下、欠員の増加 ・ 学科名の古さ ・ 一括募集にした場合の専門性の低下 ・ 一括募集入学後の学科選択の方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業との連携充実 ・ 企業現場経験者による授業の拡大 ・ 職業に直結した学科の設置 ・ 取得資格の充実 ・ 複数学科の連携活動 ・ 工業デザイン系の充実 ・ 環境を視野に入れた学科の設置 ・ デュアルシステムの導入 ・ 起業家精神の育成 ・ アントレプレナーシップ教育の推進 ・ 一括募集の実施
総 合 学 科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性に欠ける学習内容 ・ 卒業後の進路の分かりにくさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な学びの確保 ・ 普通科要素の確保 ・ 進路目標を考える機会の提供
そ の 他		<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動に特化 ・ 県立大学と連携した人材育成 ・ 特色ある学科 （例）マンガ学科、アニメーション学科、鉄道学科など

「様々なタイプの学校・学科」について

	積極的なご意見	消極的なご意見
中高一貫教育校	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫校は6年間で柔軟なカリキュラムを作って学べるのがメリット。 ・中学生にとっては、高校生を身近に見ることができ、自然な形で上級生の姿を浸透させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の減少が部活動の減少や学級編制の困難さに結びついている公立中学校が増加する中で、地域の生徒がさらに少なくなるといった課題をしっかりと整理する必要がある。 ・県全体では必要だが学区ごとに設置する必要はない。
国際バカロレア認定校	<ul style="list-style-type: none"> ・企業も国際化に力を入れている。海外から戻ってきた人の選択肢にもなるのではないか。 ・IB資格の取得のハードルは高いが、バカアロレアで行われる双方向・協働型の学びのスタイルは現代の授業では非常に重要な考え方。 	<ul style="list-style-type: none"> ・需要と供給のバランスの視点で検討すべき。現在も国際科が設置されているので差別化が必要。 ・国際バカロレア認定校は、少人数の生徒にしか対応できない。ニーズがあるかもわからない状態であり、出口(卒業後の進路)をしっかりと示さなければ、希望者は集まらない。
外国人生徒に係る特別定員枠	<ul style="list-style-type: none"> ・製造業が多い富山県のことを考えると、外国人の対応について検討するのがよい。 ・安心して学べる環境を作ってあげたらいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れる現場の先生の負担も大きい。
全国募集	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学科に特色のある学校で全国募集をしてみようか。 ・全国募集の受け入れについて、富山に移住したい人たちのニーズに乗り、広げていけたらいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国募集は選択肢を広げるという点では大事だが、子ども達が減る中、生徒の取り合いになり解決には至らない。

第1回ワークショップの主なご意見

テーマ①：「提言」及び「県立高校の目指す姿」について（全学区のワークショップより）

※下線部は、項目ごとに整理してp 1～p 4にお示ししたご意見

項目	ご意見の概要
提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>魅力ある高校づくりが「主」で、その結果としての再編統合は「従」である。</u>その目的と手段を逆にするとおかしなことになる。 ・ 「学びたい学んでよかった」という視点はよい。子どもが何を学びたいのか。生徒が学びたいと思えるような学科、学習内容、活動があるとよい。そのためには、生徒が何を考えているかを反映できるとよい。 ・ <u>提言は、現実的で実効性がある。学科と学校規模をかけ算しながら、その価値や、学校を高めていこうという発想だと思う。</u> ・ 大きく軸を分けてある（学科構成と学校規模）というのが面白い観点であった。 ・ 「学びの質の向上」という視点において、学習活動、部活動、職業教育などそれぞれに特化した学校があるとよい。 ・ 提言や目指す姿に目新しさは感じない。<u>人間性育成にも適った小規模校はなぜだめなのか。</u> ・ 提言の内容は、小中高に共通の内容になっている。<u>富山県として特色ある高校をつくるならば、もっと富山県としての特色ある部分が必要。</u> ・ 提言にあるように、基本的には「その高校で何を学べるようにするのか」、「富山県として、どのような人材を育成したいのか」を考えていくべき。 ・ 子どもたちに多様な選択肢を提供することは大切で、様々な学科を備えた一定規模の高校が必要。 ・ 提言に子ども中心の視点に立ち、幅広い選択肢を確保するとあるが、中学校卒業段階で選択できない生徒もいる。入学後に学科の変更ができるなどの仕組みがあるとよい。 ・ 昔は、学校の特色よりも偏差値や家からの距離で進学先を選んでいて、県内私立高校や県外の高校に進学する生徒も増えているので、提言に、<u>「生徒の幅広い選択肢の確保」とあるのはよい。</u> ・ 提言はまとまっていて分かりやすい。それを受けて<u>各高校は魅力をどう伝えていくか、中学校側は情報をどう受けていくかが課題。</u> ・ <u>人口減少の中、現状維持は難しい。思い切った方向に舵を切ることも教育には必要。</u>

(全学区のワークショップより)

項目	分類	ご意見の概要
目指す姿	連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>多様化する子どもたちの学びにどうやって学校は対応していくのか、教員だけでは負担が大きいので、民間や企業が学校をサポートしていただけるとよい。</u> ・ <u>中高の連携が盛んになるとよい。中学生が高校の授業を見ることで、やってみたいと思う機会になる。また、高校の教員が中学校の授業を見ることで現状を把握することができる。</u>
	進路選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>普通科に進学してくる生徒は夢がはっきりと決まっていない。進路が定まっていない子どもにも対応できる学校であることが必要。</u> ・ 普通科に何気なく進学している生徒にこそ、入学後にいろいろなコースを選択できるようにすることも必要。 ・ <u>生徒たちに多様な学科を用意し、括り募集で入学後に選択の機会を提供できれば、わくわく感を高めることにつながる。</u>
	特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の議論の中に部活動が取り上げられていない。進路選択の理由の中に「部活動」を挙げる子どもが多い。看板となる部活動を設置した高校を各地域に配置し、集積してもよいのではないか。 ・ <u>学力で高校を選ぶ中学生が減っているというアンケート結果もある。以前より学力以外の魅力で選ぶようになってきた。その魅力を考えていく必要がある。</u> ・ 授業の方法も変わってきている中、点数に表すことができない非認知能力をどう評価するかという課題もある。点数で輪切りにするのではなく、それぞれの子どもの能力を評価できる入学者選抜の方法があるとよい。それが魅力ある高校づくりにもつながる。
	配置	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>中学生の志向・動向を分析し、既存の学校を念頭に置かず、ゼロベースで望ましいあり方を検討すべき。</u> ・ <u>幅広い学びの選択肢を確保するために中～大規模が必要で再編は避けられない。</u> ・ 今 13 市町に高校はあるが、地域とのつながりもあるので、再編統合でどこを再編するかという話になると思うが、是非すべての 13 市町に高校は残してもらいたい。 ・ 提言には、「各学区に配置することが望ましい」とあるが、様々なところに高校があり教員配置を薄めるのではなく、子どもが移動するところにコストをかけるべき。予算、人材、時間の使い方を無駄なく検討してほしい。

テーマ②：〇〇学区の目指す姿について

《新川学区》

分類	ご意見の概要
<p>特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地域や企業と協働した教育ができる素地がある。</u> ・ 地域の人と一緒に学校づくりをしている印象。特に職業科で感じる。 ・ 一部の地域では、<u>富山学区への流出が問題となっている。新川学区だけで考えていくのは難しい。</u> ・ 高校がバランスよく配置されている。いろいろなところに公共交通機関を使って通学できることが新川学区の魅力の一つ。一か所に集まりすぎていると電車に乗る機会がなく、新たな出会いもない。 ・ コンパクトな範囲に、歴史のある博物館や県外にはない博物館、高等教育機関、企業などがたくさんある。地域や企業など産官学の繋がりは大切であり、それが実現しやすい環境にある。 ・ 強みは農業だが、子ども達を地元に残らせることを考えるか、世界に出ていくことを考えるか。 ・ <u>就職先は新川なのか。富山や日本、世界と選択肢はある。新川で完結させると狭い。</u> ・ <u>農業もあるし、最先端だけではない、深い学びができる環境がある。</u> AI と対極にある、深い学びを提供できる可能性がある。最先端に飛びつくだけではなく、基礎的な学びを大切にしたい。
<p>目指す姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>大規模な総合職業高校で1年～2年は共通に学び、3年になって選択するような考え方に立てば、その中に普通科があってもよい。</u> ・ 高校は、広い交流が必要。いろいろな人と出会える学校が必要。<u>普通科だけでなく、職業科の生徒とも交流できる学校もよい。</u> ・ 他県の孤島の高校に比べ、富山県は泊駅から富山駅まで電車で50分で通学できる環境にある。そう考えると、この地域に普通科高校が1校あり、幅広い生徒がいるようにすると入学試験も楽になるのではないかと。幅広い生徒の中で、どういう努力をしてどこに行くかという発想もある。 ・ <u>偏差値偏重ではなく、もっと幅広い学校をつくるのも一つの考え方。</u> 入学後に色々な選択肢から選んでいく制度もよい。 ・ 工業高校はもっと企業と連携すべき。新川学区にある企業は地元意識も強い。他県では、<u>企業の方から指導を受けることができる工業高校がある。</u> 企業と連携して授業を行うことで、先生の働き方改革にもなる。 ・ 地域に根差した学科を置くということについては、<u>職業科の内容も昔と変わってきている。</u> 職業科の生徒は、卒業後、地域で働いている。<u>将来への道が見える化されている高校が大事。</u> 職業と直結する高校があるとよい。

《富山学区》

分類	ご意見の概要
<p>特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県庁所在地であるため、<u>他学区にはないものがある充実した学区</u>である。 ・ 公共交通機関が整備されており、東西南北どこへでも移動しやすい。その結節点が富山駅であるため、その環境を利用できるとよい。 ・ <u>私立高校を含め、様々な校種がある。その中で、私立高校に魅力を感じている生徒が増えている。</u> ・ 進学校、即戦力となる人材を育てる職業科、総合学科などバランスよく配置されている。 ・ <u>普通科が多く配置されているが、保護者からの進学への期待が大きく、学校ごとの特色がない。進学実績ではなく、それぞれの魅力づくりが必要。</u> ・ <u>学区として高校を見る視点がなかった。一般的な市民の感覚としては特徴と言われてもよくわからない。</u>
<p>目指す姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>他校の授業を受けることができるシステムや、探究活動での様々な職業科間の連携があるとよい。</u> ・ 企業と学校の求める人材像のすり合わせができていない。経済界と現場の先生方との交流がもっとも必要。 ・ <u>公共交通機関の整備状況なども踏まえ、富山学区にある程度の選択肢を用意し、他学区には富山学区にない選択肢を用意するのがよい。</u> 少子化の中、学区間の平等性を確保することは難しい。 ・ 人口が多く、交通の便もよいので<u>国際バカロレア認定校や中高一貫教育校もつくること</u>ができる。こんな学校があればよいが人を集めにくいといった高校を中心部につくればよい。 ・ 今後、学校数を減らしていかなくてはならないのであれば、学習活動、部活動、職業教育などに専門特化したものを富山市に集め、好きなことにそれぞれのペースで取り組むことができる学校を他学区に配置するなど学区によって分けていく方法もある。 ・ <u>オンラインを使って他校と連携し探究活動を行えるとよい。</u>しかし、対面とオンラインを捌くのは現実的に難しい。サポート支援員がいてくれたらもっと充実する。 ・ 企業として、高校生に求める「専門的な知識」はどの水準なのか。学科改編が起こり、融合的になったときに、専門性が薄まる可能性があるのではないか。高校と企業とのつながりの観点でも検討が必要。 ・ 職業科の名前が古い。 ・ 募集定員に満たない学科、私学への専願者の増加など、PRの見直しが必要。中高の連携によって、魅力を発信できる。

《高岡学区》

分類	ご意見の概要
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地域と深くかかわる農業、漁業等の学科、デザインや工芸などの学科がある。</u>こうした一つのことに思い切り取り組むことができる学科はよい。 ・ 地域性といっても、他県に比べてはつきりとあるのかよくわからない。 ・ 3市だけのコンパクトな高岡学区は、<u>ある程度の公共交通機関もあり、地理的にどの学校にも行きやすくなっている。</u>つまりは、どこにでも行けるからどこにでも行こうとする<u>流出につながっている。</u> ・ 城端線・氷見線沿いに多数の高校があり、一つの駅でいろいろな学校の生徒が一緒になったり、街中を通学しているところがよい。 ・ 高岡学区と砺波学区を合わせた姿が、歴史的にも文化的にも理にかなった姿。十字に鉄道でつながっている地域性がある。<u>通学条件が適うなら、高岡学区と砺波学区を区別する意味はなくなってくる。</u>
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自然条件を生かした特色ある学科や文化・産業を生かした多種多様な学科があり、伝統がある。</u>これを今後も生かしていくために、<u>地域連携を進めるべき。</u> ・ 偏差値一辺倒ではなく、ユニークな人、夢のある人、自分のやりたいことをしている人、こういった人を確立できる人材育成が指針になる。 ・ 自分の知っている仕事の中から就きたい仕事を考え、大学に進学する職業観に基づく生徒もいるが、職業観に基づかない生徒のためにも、<u>普段からキャリア教育やそういった働きかけをしていくことが大事。</u> ・ 中学校段階で進路が決まっていない生徒は職業科を選択しないので、<u>普通科でも、途中から農業のことを学ぶことができる総合学科的なものがあってもよい。</u> ・ 親として高校への通いやすさを求めるが、子どもたちは制服がかわいい、食堂があるといったことを求めているようだ。食堂を再開したり、大学並みに充実したりした方が特色としてわかりやすい。 ・ 提言に多様な選択肢とあるが、子どもが減っていく中では限界があるだろう。専門的な学科がなくても、子ども達が学びたい、興味があるといったことを教員や親がICT等も活用して、サポートできる雰囲気があるとよい。 ・ 生徒・保護者に見える化されていないので、<u>今ある普通科コースをどう情報発信していくか考える必要がある。</u>

《砺波学区》

分類	ご意見の概要
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自然条件こそが魅力の1つ。農業科の人気があり、農業で移住してきている人もいる。</u> ・ <u>自然だけではなく、企業など1次、2次、3次産業がバランスよくあるのが特徴だと考えている。学科はバランスよく配置されている一方、交通面で不便さがある。土日の部活動のことを考えると、親ばかり頼れない。</u> ・ <u>少ない学校数ではあるものの、学科が幅広く設置されており特色としては結構ある。</u> ・ <u>アクセスの良さから、金沢市の私立高校に進学する中学生が増えている。</u> ・ <u>小中高で連携しており、今後も生徒たちや先生方の交流を通して高校の魅力を生徒たちに伝えていける。</u>
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>目的が決まった人にフォーカスされた意見が多かったが、実際は大半がなんとなく大人になって働いていてという人たちだろう。いろいろなことが見えるようにすることが一番大事なのではないか。</u> ・ <u>中高一貫という形ではなく、中で繋がっていればよい。教員がそれぞれの現場を見て、知って、刺激を得ていくことで、「保守的な富山県が変わった」と言われるのではないか。</u> ・ <u>石川高専に進学する生徒もいる。中学時代から目的を持って進学を考えている生徒のために、<u>県立大学と連携して、人材育成をするコースがあっても良いのではないか。</u></u> ・ <u>学校数が少なく、地域もコンパクトだから繋がりが強い。<u>教員同士の繋がり、高校生と中学生の繋がり、地域との繋がりがあ</u>る。子どもたちが心から地元の良さを知ること<u>で安心感が高まれば、中高間の壁がなくなっていく。こうした活動を地道に浸透させていくしかない。</u></u> ・ <u>砺波学区という括りだけでなく、せめて砺波、高岡学区の範囲で、<u>県外へ流出しない、県外からも生徒を呼べるような高校のあり方を考えることが大事。</u></u> ・ <u>小学校5年生の時点で、<u>県内県立高校が選ばれない状況が現実にあるので、中学校選択の時点で各自治体に考えてもらいたい部分もある。</u></u> ・ <u>特色ある高校を富山市ばかりに集めずに<u>県内に分散させる。</u></u> ・ <u>一定の中学校出身者が多い状況ではなく、<u>様々な中学校から通うことができるようになる</u>とよい。</u>

第2回ワークショップの主なご意見

テーマ①：学科・コース

	ご意見の概要
各 学 科 共 通	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>学科を考えるときには、その内容(教育プログラム)を検討する必要がある。そこにお金と人材を投入しないといけない。</u> ・学科・コースの選択肢が多すぎても不透明になる。学ぶこと、その次の進路について、明確にするべき。 ・学科・コースの話をするにあたって、どこまでの自由度があるのか、県教委は明確にしてほしい。でなければ、建設的な議論ができない。現実的にできることを議論したいので、目に見える形で、議論の材料を用意してほしい。 ・既存の学科を考慮せず検討すべき。 ・学科・コースで新しいものをつくるならば、<u>熊本県のマンガ学科のように町の協力やプロとの連携がないと難しい。</u> ・インターンシップがイベントではなく、<u>キャリア教育の一つとして認識されたらいいのではないか。</u> ・高校段階で、地域と接する機会があることで、一度県外へ出たとしても地元に戻ることもつながるのではないか。 ・<u>わかりやすい特色を打ち出さなければ、生徒・保護者に伝わらない。</u> ・特色・魅力について、子どもの意見も大事だが、大人としての先を見据えた知恵も大切。子どもの見えていないところに気を付けてやっていけばよい。
普 通 系 学 科	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科をどう魅力化するかが一番大事。普通科の教育にも学校単位の個別性をもっと出してもいいのではないか。 ・普通科の良さは幅広く教養を学べる点。STEAM教育や<u>データサイエンスなどの統計的な知識を学ぶことが大切。</u> ・学び方を学ぶことが必要。特に普通科では探究活動の中で、今まで以上に<u>地域と連携した活動ができる</u>とよい。 ・<u>文系理系を問わずデータサイエンスの素養が求められているため、早い段階から科目として学習する必要がある。</u> ・共通テストでも「情報」が必修化されたところであるし、<u>DXでリードしていく学校があればいい。</u> ・環境、地域、経済、観光など地域の資産をターゲットにした<u>探究活動の時間を増やし</u>ながら、<u>進学にもシフトしていけるような普通科をつくるべき。</u> ・普通科の中に、就職を考えるコースがあると、目的意識をなかなかもつことができない生徒にとってもよいのではないか。 ・大学の様子を見ると、デジタル・理数分野の取組みが進んでいる。富山県にも、<u>情報学科が必要なのではないか。</u> ・<u>大学進学のための力をつける学校が必要。</u> ・前回からの話を聞いていると、学校側の魅力発信がまだまだで、中学校などに届いていないのではないかと思う。STEAM教育や地域連携を踏まえた<u>探究活動、部活動など、進学実績とは違う特色をもう少し明確に打ち出す</u>ことが必要ではないか。

ご意見の概要	
職業系専門学科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立大学と工業高校の連携など<u>高大連携</u>をもっとすべき。 ・ <u>地域連携</u>という視点では、<u>デュアルシステム</u>も取り入れながら、学校では座学、企業では実習という取り組みも考えられる。 ・ 地域の安全・安心を守るという点で、除雪、災害対応にあたる人材が高齢化している。そうした視点の大切さを若い人に学んでもらうため、建設系の学科を設置してほしい。 ・ 職業系専門学科では、<u>6次産業化や起業を視野に入れた力を身に付けられるとよい。</u> ・ 農業は科学技術の進展により、これまでの農業とは違ってきている。生産だけでなく、流通、販売までを視野に入れた教育課程が必要。 ・ 商業科の進学率が高いので、普通科コースにして一括募集し、入学後に選択する方法が分かりやすい。 ・ <u>中学生にとっては、電気や機械などに分かれていることに抵抗感がある。</u>そういうことも考えて学科・コースや学習内容を考えていく必要がある。 ・ 職業科は、これをやりたいというものがある。しかし、離職率を考えるとミスマッチがあると思われる。高校3年間で選択した道でよいのか考えるために社会を知る場が必要。 ・ 仮に一括募集で専門性が薄くなっても、幅広く学び自分に合ったものを選ぶことで就職後のミスマッチを防ぐことができる。本当に必要なことは就職後に企業で教える。 ・ 企業では、建築、デザイン、土木など様々な分野に女性がいる。<u>斬新なネーミング</u>にすることで工業高校に進む女子生徒もいる。
総合学科・総合選択制高校	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>出口である進学か就職かで高校を選ぶのではなく、高校生時代に学びながら進路を選択できるような学科を設置してはどうか。</u> ・ 総合選択制高校はこれからの高校の一つのあり方。普通科にいても、横断的に他学科の科目を学べる、枠を超えた科目選択ができることが魅力。 ・ 15年後に子どもが3割減ることをチャンスと捉え、総合選択制のような高校にしたらよい。 ・ 社会情勢の変化のスパンが短い現代においては、教育に求められるニーズはもとより、子ども達が身に着けている力もこれまでと変わってきているので、短いスパンで変化に対応できる教育がよい。<u>総合選択制だと、子どもたちのニーズに柔軟に対応できていいのではないか。</u> ・ 総合学科は、これまでの取組みを生かし、アプリ等ソフト面でのクリエイティブ人材の育成が中心となるとよい。ハード面は専門学科で学べるとよい。

テーマ②：様々なタイプの学校・学科、特色・魅力ある学校づくり

ご意見の概要	
中高一貫教育校	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>中高一貫教育校は6年間で柔軟なカリキュラムを作って学べることがメリット。</u> ・ <u>中学生にとっては、高校生を身近に見ることができるため、自然な形で上級生の姿を浸透させることができる。</u> ・ <u>中高一貫教育校はどのような人材を育成するためなのかという明確な目的が必要。たとえば、IT人材育成、医学部進学など。</u> ・ <u>限られた時間や人的リソースのことを考えると、3年ごとに学校を変えることや受検があることは、時間的にも学び方的にも効率が悪いため、首都圏を中心に中高一貫教育が人気になっているのではないか。</u> ・ <u>中高一貫教育校などは、よい取組みだとは思いますが、<u>生徒の減少が部活動の減少や学級編制の困難さに結びついている公立中学校が増加する中で、地域の生徒がさらに少なくなる</u>といった課題をしっかりと整理する必要がある。</u> ・ <u>中高一貫教育校は、中学校3年生での受検を圧縮する形で導入している例が多いのだろう。県全体では必要だが学区ごとに設置する必要はない。</u>
国際バカロレア認定校	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>企業も国際化に力を入れているので、バカロレア認定校は是非作ってもらいたい。海外から戻ってきた人の選択肢にもなるのではないか。</u> ・ <u>バカロレアについて、IB資格の取得のハードルは高いが、バカアロレアで行われる双方向・協働型の学びのスタイルは現代の授業では非常に重要な考え方。</u> ・ <u>富山にいても日本や世界とビジネスができる社会において、これからの教育に必要なのは地域愛やアイデンティティー、誇りだと思っている。富山では学べない分野もあると思うが、中高一貫やバカロレア、イエナプランといった教育を選択できるようにし、小中高の中でどのように連携できるかを考えていただきたい。</u> ・ <u>国際バカロレア認定校は、教員の配置も必要になる。需要と供給のバランスの視点で検討すべき。現在も国際科が設置されているので差別化が必要。</u> ・ <u>国際バカロレア認定校は、<u>少人数の生徒にしか対応できない。ニーズがあるかもわからない状態であり、導入するのであればその必要性を示す必要がある。また、<u>出口(卒業後の進路)</u>をしっかりと示さなければ、希望者は集まらない。</u></u> ・ <u>バカロレアのカリキュラムシステムが知りたい。自由なところが魅力だが、そこで働ける教員はいるのか。</u>

ご意見の概要	
外国人生徒に係る特別定員枠	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は、日本で学び本国に帰る生徒が多かったが、現在は、日本社会の中で生きていこうとする生徒がほとんどである。県立でも受入れ先を確保してもらいたい。 ・<u>製造業が多い富山県のことを考えると、外国人の対応について検討するのがよい。</u>在留資格によっては、子どもを呼ぶことができるようだが、例えば母親が日本語習得をしながら仕事をする場合、子どもが孤立しやすい環境にあり、社会的課題の一つになっている。子どもであれば富山で育ったアイデンティティーを持つチャンスなのではないかと思う。 ・外国人の特別枠があればいいのだが、個々の力に応じて進学できればいいのではないかと。<u>受け入れる現場の先生の負担も大きい</u>が、<u>安心して学べる環境を作ってあげたらいい。</u>
全国募集	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>部活動や学科に特色のある学校で全国募集をしてはどうか。</u> ・<u>全国募集の受入れについて、富山に移住したい人たちのニーズに乗り、広げていけたらいいのではないかと。</u>富山の菓や、和紙など全国に誇れる富山県の産業をPRしていけばいいのではないかと。 ・全国募集をして、流出が進んでいるのであれば外から呼べばいいという考え方で、富山の魅力を発信し、外から来た人材を育成していくというパターンがあってもよいと思う。 ・<u>全国募集は選択肢を広げるという点では大事だが、子ども達が減る中、生徒の取り合いになり解決には至らない。</u>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なタイプについては、学区だけでは考えられない。富山県を一つとして、特色のある学校を分散させるのがよい。 ・大規模校があればよいと思っている。カウンセラーの数を増やして、先生の負担を減らしたらいい。大規模だと部活動も、バリエーションができるので、多様な生徒の希望に応じた部活動が設置でき、学年を超えた生徒間のコミュニケーションもとれるのでよいのではないかと。 ・多様性について、単一的な人たちが集まるところはいずれ衰退する。(同じような学力の生徒を集めるのではなく) いろんな意見が出る、いろんな議論ができるような多様性のある生徒が集まる高校ができれば、ウェルビーイングの推進にもつながるのではないかと。 ・社会が求めていることと、子どもが求めていることは乖離している。子どもが求めている学校が必要なのだろう。

地域の教育を考えるワークショップ 参加者一覧

コーディネーター：富山大学大学院教職実践開発研究科 林 誠一教授

富山大学 成瀬 喜則名誉教授・学長特命補佐

※敬称略

※①、②は第1回又は第2回のみご参加の方

	新川学区		富山学区		高岡学区		砺波学区	
市町村教育委員会 関係者	木村 博明	朝日町教育長	宮口 克志	富山市教育長	金谷 真	射水市教育長	沼田 勉	小矢部市教育長
	小川 晋	入善町教育長			津田 久	高岡市教育次長	白江 勉	砺波市教育長
	中 義文	黒部市教育長			有島 洋之	氷見市教育長	松本 謙一	南砺市教育長
	山瀬 敬②	魚津市教育長						
	長崎 亨①	魚津市教育委員会参事						
	上田 良美	滑川市教育長						
	牧田 康博	上市町教育長						
	杉田 孝志	立山町教育長						
土田 聡	舟橋村教育長							
経済界	伊東 潤一郎	アイティオ (株) 取締役社長	土屋 誠	日本海ガス (株) 取締役社長	津嶋 春秋	(株) アーキジオ取締役会長	佐藤 幸博①	(株) 柿里取締役社長
	杉野 岳	(株) スギノマシン代表取締役副社長	寺島 雅峰	(株) 寺島コンサルタント代表取締役	北村 耕作①	キタムラ機械 (株) 代表取締役	山田 由理枝①	(株) 山秀木材ヤマヒデホーム専務取締役
			稲葉 伸一	(株) 三四五建築研究所代表取締役			上田 信和②	砺波工業(株)代表取締役社長
							川合 声一②	日の出屋製菓産業(株)代表取締役会長
保護者	宮崎 孝志	富山県高等学校PTA連合会	西能 淳	富山県高等学校PTA連合会	山村 紘次	富山県高等学校PTA連合会	大峯 静佳	富山県高等学校PTA連合会
	伊東 浩二	富山県PTA連合会	松山 朋朗①	富山県高等学校PTA連合会	北林 和正	富山県PTA連合会	山本 篤史	富山県PTA連合会
			青山 和也②	富山県高等学校PTA連合会				
			城岡 真	富山県PTA連合会				
中学校長	内生蔵 保人	舟橋中学校	竹脇 孝志	堀川中学校	杉山 智充	志貴野中学校	廣瀬 敬一	出町中学校
高等学校長	金田 幸徳①	滑川高校	越後 喜紀	富山いずみ高校	中田 嘉幸	高岡商業高校	片岡 英史	石動高校
高校教諭	高柳 真里子	魚津工業高校	近郷 智絵	呉羽高校	羽賀 亮吉	大門高校	久保 孝幸	砺波高校
	種田 浩一	雄山高校	寺島 光紀①	富山北部高校	川腰 達也	高岡高校	松永 大樹	小矢部園芸高校
	中嶋 美奈子②	魚津高校	中嶋 友美②	富山西高校				